

前回までの意見の整理

・・・前回の懇談会までに出された意見等を会議録から抜粋し整理しています。

1 協働の更なる推進

・防災・防犯の分野など、近年の災害等の発生状況を踏まえ町会等の地域コミュニティや関係機関との連携の仕組みをさらに整備していくことが必要である。

- 「民間企業等との連携協定の締結」について、防犯・防災分野では、平成28年度に市、町会長連絡協議会、警察が連携して「蕨市犯罪情報の住民提供等に関する協定」を締結した。協定に基づき、犯罪などの情報提供にあたって防災行政無線やケーブルテレビを活用しているが、より速やかに各家庭や市民に伝えられるシステムを確立したいと考えている。 ⇒具体的な部分は総合戦略へ
- 台風19号による避難勧告、避難所を開設経験し、行政・町会・自主防災会の連携がより重要になることを感じた。 ⇒具体的な部分は総合戦略へ

・地域の団体や市民活動団体などに加え、民間事業者との連携等も重要である。また、交流都市等地域間での連携も推進する必要がある。

- 蕨市は人口比率だと市民活動は活発であるが、国は、第2期総合戦略の策定方針において、各種団体やNPOの市民活動を重視しつつ、「地域づくりを担う組織や企業と連携」という言葉を加えている。昨今の災害において町会、自治会の再構築も叫ばれているなか、企業のCSR的な地域貢献を言葉として加えるのはあり得る。 ←総合戦略有識者会議より
- 各企業との連携については、河川の氾濫時に、蕨は高台がないので、スーパーマーケットなど高い建物の駐車場を持つ企業と連携できればよいと思う。 ⇒具体的な部分は総合戦略へ
- 現在、荒川氾濫時における浸水深表示に向けた調整を町会では行っているが、高台がない蕨は、強靱な建物であるマンションを一時避難場所として活用することについて、連携が進められたらよいと思う。 ⇒具体的な部分は総合戦略へ
- 民間企業の力を借りた地域への支援を行うことで、協働の幅が広がると思うので検討してほしい。
- 民間との連携については、今までは、住んでいる地域と民間の事業者との連携を重点的に行ってきたが、川上村や大田原市との協定など今あるチャンネルを生かして、協働で地方との連携をより推進してほしい。

・協働事業提案制度について、引き続き活性化に向けた工夫に取り組む必要がある。

- 協働事業提案制度について、新しい提案は少ない傾向があるため、指定テーマを募集する際に、起爆剤となる事業の具体化を計画的にできるとよい。 ←総合戦略有識者会議より

・高齢化の進展等の中で、町会などの地域活動や市民活動の担い手確保について工夫が必要となっている。

- 高齢者の増加により、市民活動の後継者づくりに苦慮している。私たちの時代と比べて、今の若い人は、ボランティアを行うことは少ないように感じる。
- 地域活動の担い手不足については、問題点を掘り起こすため、成年式実行委員会に参加した大学生が数年後にどれだけ地域のボランティアなどに関与しているかを調べてもよいと思う。福井県鯖江市は JK 課を作ってまちづくりに関するアイデアを高校生から出してもらっている。自分たちのアイデアが生きると地域への愛着が出るため、若いうちから愛着を深めることが必要になると思う。
- 以前に比べて、町会が機能しなくなっている。市民が行政に頼りすぎないように、自助の必要性を知らせることも必要だと思う。

・商店街の活性化について、市民や様々な人と協働で進めていく必要がある。

- 蕨の顔である蕨ピアロード商店街の道路は、何十年も整備されておらず、状態が悪い。我々も努力して声を出していくが、魅力ある商店街にするためには、市民や様々な人と協働して改革を進めるプランを作る必要がある。

・外国人人口が1割に達しようとしている中で、多文化共生の体制を速やかに整えるとともに、ともに蕨に暮らす市民としての意識の醸成やコミュニティへの参加の促進を図る必要がある。

- 外国人の増加は加速しており、総人口に占める割合が1割を越えようとしている。行政としても、蕨市民になるという自覚を持つよう働きかけたうえで市民として受け入れるということを行っていかないと、これからの蕨市のまちづくりは大変になる。
- 外国人の増加は今後も進むため、転入時に、市や町会のルールやマナーをしっかりと説明し、話し合いをできる環境を作ることが大切になる。
- エルドラドやリンデンと長年交流してきたが、今後は、国際交流で楽しく触れ合う時代ではなく、これまで参加してきた人が土台になって、蕨の外国人を働き手や町会の一員として、そして一人の人として同じ待遇で受け入れる多文化共生の体制を速やかにとらないといけない。
- 国際交流から多文化共生へ移行すべきという意見に共感する。ごみ出しや子育ての不

安など、外国人との共生にあたっての生活上の問題点を解消するための施策を打ち出すべきである。

- 協働は外国人と協力して行う時代へと変わってきており、ダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容）の考え方にに基づき、不法な方がいたとしても基本的人権を尊重し、国籍で差別することなく、真摯に向き合う必要がある。
- 1，2人の枠で構わないので、日本語が流暢な外国人を有用な人材として雇用することで市の資産になりうると思う。力のある団体と協働することも必要ではないか。

・教育、消費、雇用など様々な分野で多文化共生の環境づくりを進め、地域生活における相互理解の促進と地域の活性化につなげていく必要がある。

- 日本人の客が離れるため、外国人を敬遠する商店がある一方で、外国人向けの品揃えをしたら来客が増えた事例もあるため、外国人客の受入れ態勢をつくる必要がある。
- 言語が多岐に渡ると、会話でのやり取りは難しい。外国語のメニュー表も作っているが、言語対応に行政のバックアップがあるとより推進しやすいと思う。
- 教育現場も国際化が進んでいるが、様々な取り組みを行う中で多言語対応は進んでいるので、継続してほしい。
- 外国人人口が増えるなか、教育センターで集中して日本語教育を行っているが、教育現場では言葉の壁や風習・文化の違いで相互理解が難しい現状があるので、大学も含めた連携により、教職員の組織力向上につなげることも必要である。
- 法整備が外国人の増加に追い付いていない。また、日本語教師も不足しており、教育センターの日本語学級では対応が不十分となっている。
- 労働力不足も深刻であり、これからは、町会や商店街において、言葉や生活の問題を乗り越えて、外国人を受け入れる必要がある。
- 病院においては、医療職に比べて、介護職の担い手が少ないため、多様な国籍の外国人労働者を受け入れる必要がある。
- 雇用にあたって日本の文化・生活のルールが行き届かないことが懸案となっているが、外国人向けの研修を企業単独で実施するには費用を要するため、行政のバックアップがあるとありがたい。
- 外国人雇用に積極的に取り組み、行政・市民・企業をつないでまちづくりを行える関係性を作らないといけない。一企業が頑張っても幅が広がらないので、行政が上手くリーダーシップを取ってほしい。
- 日本全体として外国人の流入は止められない。決して排除するわけではないが、蕨市として外国人には細かく土地を売らないで市有地として活用するなどの思い切った政策も必要だと思う。

・多文化共生の環境づくりを進めるためには、従来のボランティアに加えて、外国籍の

学生等も含め、多様な主体との連携とともに、支援のあり方の検討も必要である。

- ボランティアで日本語教室を行える時代ではない。予算をつけてしっかりサポートしてほしい。
- 外国籍の大学生・大学院生は専門学生とは異なる経験を持っている。ボランティアとして組み入れて協働することで、窓口職員の言葉の壁をカバーし、業務負担を減らせると思う。
- 町会に加入している外国人は少ないため、ごみの出し方や曜日が守られずに困っている。ごみ出しマニュアルの多言語化だけでなく、ごみ置き場への掲示も手伝ってほしい。

2 職員力・組織力の更なる向上

・市の職員について、限られた人員の中で職員力を発揮し行政サービスの向上を図るため、民間経験者等も含め優秀な人材の確保を図るとともに、人材育成を進めることが重要である。

- 今後、定員を増やすわけにもいかないので、職員の質を向上するための教育が必要となる。
- 外郭団体を含めた人事交流、とりわけ技術系職員による技術交流が必要だと思う。技術が日々進む中で、民間の知恵を活用し、管理する側も新しい知識を取り入れてほしい。
- 民間交流として、市役所職員が民間に出向して給与も出してもらうのはどうか。更に、通常の若手ではなく、一定の役職者が出向して学ぶことで、市政へダイレクトに反映できると思う。
- 市の担当職員は優秀で発想力がある。蕨は市域が小さくて、互いの顔が見えるので、そうした職員を育成することで職員力が上がっていくとよい。

・市職員の人間力や対話力の向上を図り、蕨を支える地域のリーダーを育成する取り組みが必要である。

- 若者のコミュニケーション能力が下がっているので対話技術を上げることが大切である。
- AIが置き換えられない職員の間力や対話力を向上できれば、行政サービス全体を向上できると思う。
- 市立図書館では「駐車台数に限りがあるため、近隣店舗の駐車場に駐車しないでほしい。土・日・祝日は、自転車やバスを利用してほしい」という案内があったが、車を使わざるを得ない市民もいる。周りの店舗と協働して駐車場を確保するなど、もう少し

し知恵を絞る職員がいてもよいと思う。

- 市民・行政双方にプラスになる、蕨を支える地域のリーダーを育成する取り組みがあれば面白い。そのためには、市民・職員の若手がフリーディスカッションをして相互にやり取りする機会があればよい。その際には、市役所の会議室では発想が狭まると思うので、地域の公園などで議論するとよい。

・健康で元気に働く職員・職場づくりの推進として、メンタルヘルス対策等について、対象者に適切な対応をとることが重要である。

- 「健康で元気に働く職員・職場づくりの推進」について、メンタルヘルス研修を行ったとあるが、対象者へ適切な対応を取ることが、組織力や職員力の向上につながると思う。

・公務員制度改革などに対応した高齢期の雇用の拡大について、経験豊かな職員の知恵や技術の活用を積極的に図ることが重要であるとともに、年齢構成に留意し、世代間の強みを活かす効果的な行政運営を図ること必要がある。

- 高齢者の再雇用により、知識を持った人材を生かすことは大事なので、しっかり活用してもらいたい。
- 高年齢者の再雇用や雇用延長も必要であるが、新たな職員の採用も大切である。年齢構成に偏りがあると、安定した行政サービスの継続が難しい。
- 70代でも元気な人はいるため、公務員制度改革の中で、高齢者雇用を進めて、蕨のまちづくりのために活用してほしい。
- 労働意欲が旺盛な企業の定年退職者を雇用してはどうか。数十年間仕事をしていれば、市政で役立つ専門分野はあると思う。給与が安く抑えられるメリットもある。
- 若い人はIT技術に詳しい一方で、高齢者の知恵や経験を持ってないことがあるため、高齢者と若い人が一緒に仕事することで、お互いの弱点を補完でき、生産性を上げられると思う。

・組織について、時代の流れや、新庁舎の建設等を踏まえた機構とその横断的な連携、また適材適所の人事配置等により、効率的・効果的な組織運営を図る必要がある。

- 市役所は縦割り行政の傾向があるため、横のつながりを実現しつつ、新庁舎でレイアウトなどが変わる中でサービスの向上を図ってほしい。
- 外郭団体についても人材不足があるので、条例整備による外郭団体への職員派遣について、取り組んでいただきたい。
- 市の若手職員で辞める人が多いので、負の連鎖を心配している。適材適所の人事配置を行えているか疑問である。
- 市内7つの公民館のサービスに差がある。社会教育を中心に行っていた時代と異なり、

現在は幼児教育や高齢者学級を行うための貸館業務が主になっており、次世代を支える地域のリーダーが育っていない。

- 民間企業でも年齢構成の偏りにより、様々なノウハウが継承されないケースがあると聞く。持続可能で効率的効果的な組織になるよう取り組んでほしい。

・様々な分野でのIT化等を時代に即した形で進め、市民サービスの向上や業務の効率化を図ることが必要である。

- 電子納税を市民活動に係る経費を支払う市民活動にも応用できるよう、制度の改正を検討してもよいと思う。公会計の基準も、時代の変化を反映しないと不都合が出ると思う。
- ペーパーレス化の推進は考えているか。テレビ会議など民間の電子化は進展している。
- 一度にペーパーレスを進めると、インターネットが普及する前に育った世代は負担となるので、過渡期にあると感じている。

3 自律した行財政運営

・市税の滞納対策を更に進める必要がある。

- 市民税の滞納が多いので対策を検討してほしい。

・住みやすいまちづくりを進めることで市内への転入・定住を促すなど、税収の確保を図ることが必要である。

- 蕨市はさいたま市、戸田市、川口市と違って公営競技場を持っていないため、市民税を頼りにするしかない。将来的なことを考えると2世代・3世代先が住みやすいまちづくりに支援を行うことが大事となる。
- 財源の確保について、マンション一体型の新庁舎を建設することにより、賃貸収入を上げている自治体の事例を聞いたことがある。蕨市は、都心に近くて利便性があるので、財源の確保という点で一考してほしい。
- 市の歳入の多くを市税が占めているので、長く住んでもらうため、財源確保に真摯に向きあってほしい。
- 定住促進施策について、結婚すると転出する入居者が多い。結婚後も住みやすい蕨を打ち出すのは大切だと思う。
- 財政出動による経済対策を行うことで、法人市民税の増収を目指すことも検討してほしい。

・行政評価の活用もふくめ、更に効率的・効果的な事務事業の実施に向けた見直しを図っていく必要がある。

- 行政評価で効果が上がらない事業をどれだけスクラップして効率化できるかが大切である。
- 組織運営の要はヒト・モノ・カネの三要素である。今までの行政経験を活かして、引き続き効果的な活用について検討いただきたい。
- 歳入額が増加傾向にあるのはよいことだが、効果的な使い道を考えてほしい。生活保護世帯の多さや敬老祝金の額が他自治体より多いことは問題である。
- 教育施策など効果的に使ってほしい。
- 国の見込みでは、団塊世代で貧困になる者が増加するようである。高齢者に対する効果的な予算の使い道を考えてほしい。
- 行政評価により、PDCAサイクルを回して不要な事業をやめることも必要になると思う。
- 市民会館の耐震工事が終わった直後にエレベータ工事を行っているが予算の無駄であるため、効率を追求してほしい。

・蕨市立病院や土地開発公社について、より一層、健全な経営を進めていく必要がある。

- 公立病院の再編について話題に出ているため、蕨市立病院の耐震化も含めた経営改革を考える必要がある。
- 「土地開発公社の経営健全化」など長期的な取組は、時代の変化に即した内容にしないと机上の空論になる。

・財政健全化とともに市民に夢を与える投資は重要であり、蕨の顔となる蕨駅西口再開発について、市民声を聴きながら進めてほしい。

- 蕨駅西口再開発も駅前の顔となるため、市民の声を聴きながら進めてほしい。財政健全化が一番大事であるが、市民に夢を与える投資がないと元気が出ない。